

三門

この門は、建長寺の神聖な領域と日常の世界の境界の目印として機能しています。門をくぐることで、心を清めて寺の教えを耳から吸収できるようになると言われています。

一般的な門とは異なり、三門には扉がありません。これは、建長寺がいつでも禅について学びたいあらゆる人に開かれているということを示すものです。2階部分は楼上と呼ばれ、500体の阿羅漢像が安置されています。

三門は約20メートルの高さがあり、それまであった門が火事で焼失した後、1775年に建てられました。その再建費用を集めようと、日本中で寄付金集めが行われました。三門は重要文化財に指定されています。

三門はタヌキの三門とも呼ばれています。伝説によると、建長寺の僧たちはタヌキの餌やりや世話をしていました。そのタヌキが、恩返しに、僧に変身して門の再建費用の寄付金集めを行ったとのこと。